

# 南砺市国土強靱化地域計画検討委員会

## 第1回 委員会 議事要旨

【日時】令和2年8月27日（木）10時00分～

【場所】南砺市役所 3階 302大会議室

### 議事（1） 南砺市国土強靱化地域計画について（資料1）

委員長 : この資料1について、ご意見があればお願いしたい。

A委員 : 富山県が国土強靱化地域計画を策定しているとあるが、地域防災計画との違いはなにか。

事務局 : 担当課の所見としますと、地域防災計画は、災害対策基本法に則り、災害に応じた予防対策、応急対策及び復旧対策を策定しているものである。このうち予防対策において、ハード面の予防対策であれば大規模地震が来ても壊滅的な被害とならないようにするためのインフラ整備、ソフト面では円滑な避難に向けての防災訓練の実施が国土強靱化地域計画に係わるどころであると認識している。

言うなれば、地域防災計画は大枠の全体像を示しているが、国土強靱化地域計画は具体的な予防対策を計画するものである。

国土強靱化地域計画には国の基本計画と県の地域計画が策定済みであり、これらと調整を図りながら市の地域計画を進めていく予定である。大枠としては県の地域計画に準じて適用、あるいは記載されている内容を変更して適用する。

国土強靱化地域計画は、地域防災計画の予防対策の部分が強い計画と認識している。

B委員 : 自治体によっては、国土強靱化地域計画に地域防災計画を下に位置付けているところもあるが、国土強靱化基本法においては調和することとされているため、わかりにくいかもしれない。

A委員 : 予防対策に特化して進めるという認識でよいか。根幹となる部分を明確にしておきたい。

事務局 : 国土強靱化地域計画は、さきほど災害に対する予防と述べたが、災害発生に伴う被害はあるものとして、最悪の事態にならないように抑制・緩和することも重要であると認識している。

委員長 : 国土強靱化地域計画は、総合計画に近い要素があると思われるが、総合計画よりも具体的かつ迅速に実現するというところに色合いの濃い部分があり、地域においてなにを優先して実施すべきかを示す必要がある。

C委員 : 事前レクにおいて、第2回委員会以降は、建設・民政・教育委員会の様々な部署も列席し、インフラ整備に関しては建設系のご意見をもらうなど、専門的な内容とする予定と伺っている。

委員長 : 富山県国土強靱化地域計画では、複数部署のメンバーが参加し、各部署の

重点指標を持ち、その達成度を確認するなど、PDCA サイクルで見直していくものとしている。

市町村においても、各部署が事業を進めているところであり、各部署への確認や要望するにあたっては、会議に参加してもらうことが望ましい。

B委員 : 共有しておくべきことは、富山県と富山市が策定済みであるが、各自治体が急遽作成しているのは、国土強靱化地域計画に紐付けられた交付金が得られないと聞いており、予算を得られないとインフラ整備がしにくくなるという現実的な問題もある。

事務局 : 補足します。ある程度道路が整備されていないと、救援物資を受け取るときに支障が出ることも予想されることから、応急復旧とするためには、最悪の事態にならないようにする手立てが必要と考えている。

学校については大規模改修も含めて更新を進めており、病院についても2つある病院の統合等を模索しているなど、各部署で行われている事業を迅速に進め、交付金事業の適用をにらみつつ、総合的に整理することが、この計画に求められていることと思われる。

なお、具体的な事業については、提示する段階で各部署と確認をとりながら調整していきたい。

委員長 : そのほかにもご意見があると思われるが、時間の関係もあるので、議事2に移る。

## 議事（2） 地域の現状と計画の考え方について（資料2）

委員長 : この資料2につきまして、ご意見・ご質問等をお聞きしたい。どなたからでも結構ですので、よろしくお願いします。

C委員 : 資料は、国・県の結果に準じて整理しているが、ソフト対策は、人材育成・防災訓練くらいなのか。ソフト対策は前面に出していないのか。

委員長 : 人材教育はソフト対策の要素が強いが、今回の資料はまとまった形のものであるため、詳細な項目出てくるものと思われる。

C委員 : ソフト対策は、保健・福祉分野で散見される。

委員長 : 今回の資料は、国と県に寄った計画となっているが、県の方には9番目に太平洋側の代替性という項目があるが、これを南砺市に置き換えた場合、隣接する县市町村との連携に着目するなど、地域特性をもっと出してもいいと思われる。南砺市の計画においては隣接する岐阜県白川村や石川県金沢市とのつながりを強調してはどうか。

ところで、この資料に係わることは、本日決めないといけないのか。

事務局 : 本日決めないといけないことではない。いただいた意見を踏まえて修正をする予定である。

D委員 : 富山県の計画に準じるだけではわかりにくいいため、南砺市は隣接する岐阜県白川村や石川県金沢市などとのつながりが強いことから、つながりの強い自治体との連携をさらに強くしていくべきである。

事務局 : 防災協定を結んでいる事例を太平洋側のみ提示したが、隣接市等との防災協定を踏まえて見直しを図る。

C委員 : 南砺市は山々に囲まれ、麓の平野に繋がっている特徴がある。城端地域は、平成20年の集中豪雨に伴う被害を直撃したところである。

現在、山は荒れており、間伐するなどの手入れをして森林の保全、健全な森林を整備することが望ましい。このまま平成20年と同様の集中豪雨が発生した場合、ほとんどの山で土砂崩れや倒木が多発し、それが被害を大きくする要因のひとつと思われる。

一級河川における堆積物を除外して流れをよくするのも重要であるが、災害に強い南砺市とするには、健全な山を整えることが重要と思われる。

委員長 : いまのご指摘のあったレベルで、地域の現状を具体的に整理してもらえると、市民の皆様にもわかりやすいと思われる。

例えば、7頁の建物の老朽化が進みとあるが、一般的にはそうであると思われるが、時間軸を踏まえて、南砺市の場合、建物の老朽化はどの地域で深刻な問題が生じており、どこを重点的に改善が必要と言うのかがわかるようにするとよい。また、下水道に着目した場合、施設の老朽化の進行状況を示し、耐用年数等から更新を優先すべきところはどこではないかなど、各部署の現状・問題点・課題を整理してもらいたい。

B委員 : 県のものに沿って整理されている。県で整理されている太平洋側のリダンダンシーは、南海トラフ沖地震を想定し、被災時には富山県側で機能を代替する及びされることを念頭に、富山県から消防・救助支援を出すので富山県内の火災への対応はどのようにするのかなどの意識があつての項目立てである。南砺市にとってのリダンダンシーであれば、近隣自治体の協力確保の方が南砺市ならではと思われる。

7頁の建物の老朽化については、木造住宅の多い地域などは消防の方で情報を整理されていると思われるので、確認してもらいたい。さらに、空き家や耐震化などの具体的な情報を確認してリスクを洗い出すとともに、今後検討するKPI（評価指標）に活用すればよい。

また、雪に着目すると、砺波の観測所のデータでも降雪量は比較的多いことは確認できるが、地域の除雪を担っている建設業の関係、通常の雪害よりも突発的な「どか雪」に着目してはどうか。

道路事故において、南砺市の場合は山間部に特化したものと想定されるので、砺波平野よりも山間部を中心にした課題を明示してはどうか。

事務局 : たくさんのご意見をいただいた。山の防災力の強化については、県の協力と市で一部を対応している。市では、エコビレッジ構想において森林の活用といった取り組みをしていることから、これらを整理して盛り込みたい。

市街地の対策については、建ぺい率などの住宅地の関係を整理し、道路の整備状況も整理する。

近隣の自治体との連携については、南砺市は合併前の8つの旧町村がい

ろいろと交流を拡げており、例えば小矢部市や砺波市とは相互応援協定や消防本部で関係し、高岡市と消防指令業務を共同運用しているなど、これらの多々ある連携体系を盛り込むものとする。

雪の関係では、除雪機械オペレータの確保が課題になっているのでこれも盛り込むものとする。

時間軸については、どの分野にも関係することですが、わかりやすさに配慮したい。

道路の関係は、南砺市の平野部には立体交差などの整備はないと思われるが、橋梁の耐震化を進めていることから、これについても盛り込むものとする。山間部の主要な道路は大体県道に依存しているが、林道から市道に換えた路線について盛り込むものとする。

委員長 : まだまだご意見があろうかと思われるが、時間の関係もあるので、ここでご意見をいただくことを止めて、次の議題に移りたい。

これまでの資料をおいて、お気づきの点があれば、事務局の方へメールやFAXにて送付してもらいたい。期限は10日間ほどあればよいか。

事務局 : 次の段階までの日程が短いため、一週間程度の期間でお願いしたい。

### 議事3 その他(資料3)

事務局 : 次回委員会は、10月19日月曜日の14時からでお願いしたい。

委員長 : これにて議事の方は終了とする。

以上